

インテリアの仕事（山元百合子氏）

平成 17 年 12 月 19 日

高橋 智行

「インテリアコーディネーター」とはどんな仕事なのか

直訳するとコーディネーターとは調和させる者、を意味し、インテリア、つまり屋内空間を調和させる者、という意味になります。インテリアコーディネーターは消費者のニーズを的確に読みとって、「その人に合った斬新な生活様式」を提案する仕事です。つまり、インテリアだけに留まらず、建築に関する幅広い知識と表現力が要求されることになる。顧客が持っている生活様式に合わせてトータルな居住空間をプロデュースする。更には現場を管理したり、見積もりも自分でできなくてはならない。

コーディネーターと呼ばれるためには、ただ単にインテリアに詳しいだけでなく、建築の知識がいるなど、生活様式を生み出す高い能力が必要となる。

インテリアコーディネーターに求められるスキル

インテリアコーディネーターは人と接する仕事です。つまり交渉力や協調性も重要になってくる。建築士や現場監督、施主などたくさんの人と関わりながら仕事を遂行していかなくてはならない。クライアントや現場管理する人間とのやり取りを調和する、という意味では人間関係に対するコーディネーターともいえる。

それぞれの思惑やメリット・デメリットを調整して、快適な居住空間を作っていくというのもインテリアコーディネーターの仕事です。

インテリアコーディネーターになるために、何も特別な資格はいらない。

しかし、資格そのものがないわけではなく、インテリア産業協会主催というインテリアコーディネーターの資格を管理している所がある。

またインテリアに対する深い知識を身につけたり、パースの技法も必要、学校に通って勉強することは不可欠となる。

天性の素質がいるような、センスが勝負の仕事だと思われるが、センスよりもむしろ必要な知識とセンスを吸収する意欲が大事。

コーディネートするのはインテリアだけでなく、人と人の要望や利害であったりもするわ

けですから社交性も備えておいた方がいい。
必要な知識を身につける、やる気、が唯一の資格。

学校で専門の勉強をした後、インテリアコーディネーターの資格試験をうけるのが、まず第一歩となる。

受験には制限がなく、年齢や学歴を気にせず受けることができる。

活躍する場所は様々ですが、正社員や契約社員、最近では派遣業務としても認められ、さらに人気が出てきた。実力次第では独立もできる。

インテリアという言葉はもっと深い意味合いを持っている。

エクステリア、ベランダやテラスが屋外の環境を指すのとは対照に、インテリアは屋内の環境を意味する。壁や床や天井、家具も雑貨も照明も。空間を形作るものすべてがインテリアだから、インテリアコーディネーターは空間を立体的に把握しなくてはならない。

たとえばインテリアグリーンのあわせ方や照明の効果的な配置。時にはその空間に流れる音楽さえもコーディネートすることもある。特に照明の調和には神経を使わなくてはならない。

全体の印象を顧客の要望にあわせてコーディネートしなくてはならないから、インテリアに多大な影響を与える照明には他の家具や雑貨・調度品よりも重要な要素が含まれている。間接照明を使うことで優しい空間を演出することができるし、直接ライトをあてることでコントラストの強い、男性的なイメージを部屋に与えることができる。

梶山 裕貴

インテリアコーディネーターの仕事というのは、お客様があつての仕事なため、忙しかったり、ひまであつたりすることを知りました。

また、内部空間を施主の希望に合わせてコーディネートをすることや床、壁、天井の仕上げ、システムキッチン、造作家具のデザインを行うことを知りました。

インテリア関連商品には家具や照明、住宅設備等色々なものがあることやインテリアコーディネーターはインテリアに関する幅広い商品知識を持ち、インテリア計画の作成や商品選択のアドバイスなどを行う必要があるため、総合的な建築の理解が必要であることを学んだ。

私は、講師の方が言われたように休息の時間には、これから美術館に行くように心がけます。

インテリアプランナーの仕事というのは、人々に望ましいインテリア空間のあり方を、時代や社会背景を考慮し、機能性、安全性、快適性、経済性を基に、高い技術と感性・経験により提案し、その提案を実現させることによって、広く生活環境の向上に寄与していく仕事であることを調べて知りました。

また同時に、対象とする領域は、住宅、オフィス、店舗、ホテル、病院、学校、工場、公共施設などすべての建物に関わるインテリア空間であることも知りました。

松木 淳也

インテリアコーディネーターはお客様にプランのアドバイスをしたり、最近では、非常にインテリアに詳しいお客にも対応できるように建築における幅広い知識を身につけている必要がある。

今回の講義で自分の部屋を描くという作業を行ったが、以外にもいつもみているのに実際図面に表そうとするとスケールがばらつきうまく描けなかった。本棚等の家具は、基本的な寸法があり、山本ゆりこさんによると部屋の大きさや家具等のスケール感覚を身につけるには、常日頃からあらゆる建物を見てそれがどのくらいのスケールで造られているかに注意を払うことによって身に付くそうです。

また、色の調和を理解することも大切で電気の種類や光の取り方で空間の雰囲気は大きく変わることがわかった。

松尾 慎太郎

インテリアコーディネーターは、依頼人の要望に合わせたインテリアを選ばなければならない。依頼人との打ち合わせの際に、依頼人の用意した空間とインテリアのサイズを的確に判断し、依頼人に伝える能力が要求されるのだと分かった。講義の中で自分の部屋の様子を描いてみて、空間認知能力が必要で、スケッチの腕もかなり必要である思った。建築関連の仕事に就くのならば、日ごろから自分の身の回りの家具や空間の大きさを知っておくことが、後々に大きく関わってくる大切な事だと分かった。

米倉 史和

空間把握能力はインテリアコーディネーターだけでなく、建築に携わる仕事であれば必ず要求される能力であり、日々の生活の中で常に意識していればある程度は身につくと思うので、がんばろうと思う。

森 陽平

建築には、「色」という要素も深い関わりを持っている。特にインテリアは、色彩や色の調和が重要である。色の違いだけで、部屋の雰囲気が変わる。色彩に関する資格を取るのも、インテリアコーディネーターにとっても役立つことになる。また、部屋の家具の配置の仕方によって、部屋の過ごしやすさや利便性、広さの感じ方が変わってくる。部屋が狭くても、コーディネーターによって広く感じられたり、住む人が落ち着ける空間になる。

また、依頼人の要求に対して、求められたコーディネーターをすることが重要になってくる。

山本ゆりこさんの話を聞いて、インテリアコーディネーターという職業の魅力を感じることができた。

浜崎 智史

インテリアについてあまり知識はなかったが今回の講義を聞いて少し興味を持つことができました。家具の配置や色使いなど、細かいところにまで神経を使う繊細な能力が要求されるものであると感じました。紙を使っただけの作業は改めて自分の部屋がインテリアにこだわってないかを思い知らされたように思います。今後少しインテリアについても学んでみたいと思います。

高木聖太

今回の講義で一番考えさせられたことは、日々いろいろなところを訪れて自分の知識とすることが大切と考えさせられました。

家具などもこの家具のデザインはいいなと思ったものや、この家具使いにくい、使いやすい、と思ったものを見つけた場合いつもメジャーなどを入れておくなどをしておいても寸法を測ることができるようにしておくことそれらの寸法などの違いを理解することでなぜこの家具は良いと思ったのか？何故この家具は使いにくいのかということが自分の経験となり、また、家具の平均の寸法などを記憶することができ、住宅の計画などもスムーズに行うことができるようになることで、数多くの設計をこなすことができ自分の成長につながると考えた。

そして、今回の講義で分かった自分の部屋の押入れをうまく使えていないという改良点を今後のテスト終了後に部屋を改良して自分の能力を上げられたら良いと思う。

カラーコーディネーターと福祉住環境コーディネーターという資格について気になったので調べることにした。

- ・福祉住環境コーディネーター

「福祉住環境コーディネーター」は高齢者や障害者に暮らしやすい住環境を提案するアドバイザー。医療・福祉・保健・建築について幅広い知識を身につけ、各種専門家と連携を取りながら住環境整備の役割を担う人のこと。

高齢社会の中、さまざまな業種での活躍の場が期待されている。

- ・カラーコーディネーター

社会にマスコミに、ネット上に、店やウインドウに、人間を取り巻くすべての場所に今や色彩が存在しており。どんな色が好まれるのか? 対象の条件に目的に、もっとも適合する色とは? 商品のもつ色彩的特性は? 快適な行動空間を演出できる色は? 色彩の問題すべてに答えられる人。色をつくる、見せる、演出して、色彩の魅力を引き出すことのできる人がカラーコーディネーターです。